

「接続等に関し取得・負担すべき金額に関する裁定方針」 第3項における長期増分費用(LRIC)方式に代わる 手法の在り方

KDDI株式会社

2026年10月27日

具体的なケースの整理の必要性やその進め方について

論点

具体的なケースの整理の必要性やその進め方について、以下のいずれの考えによるべきか。

- ① 今後具体的な課題が生じた際に改めて整理
- ② あらかじめ想定されるケースを整理することが適当であるが、構造的に片務的となる呼の精算方法が確定した段階で検討
- ③ 現時点で想定される範囲であらかじめケースを整理

当社の考え

<音声接続料>

- ・ 構造的に片務的となる呼の精算方法等については、有志の事業者間協議の場で2027年3月末頃までに一定の結論を得ることを目指し、検討中の状況。現時点において精算方法等は決まっておらず、事業者間協議に先立ち、想定される課題を整理し、ベンチマークの要否を判断することは困難。
- ・ そのため、まずは当該協議の場にて精算方法等を整理し、その後、ベンチマークの要否等を改めて検討する②の進め方が望ましい。

<データ接続料>

- ・ 現時点においては、LRIC方式に代わるベンチマークの設定を必要とする具体的な状況は特段想定されない。
- ・ そのため、今後、ベンチマークの設定が必要となる状況が生じた際に改めて検討する①の進め方が望ましい。

あらかじめ整理することによる弊害について

論点

現時点で想定される範囲であらかじめケースを整理することによって、何らかの弊害が生ずる可能性があるか。

当社の考え

<音声接続料>

- 構造的に片務的となる呼については、事業者間協議の場で決まった精算方法の内容次第では、裁定に至る可能性が極めて低くなることも想定される。
- 事業者間協議に先立ち想定される課題を整理し、ベンチマークの要否を判断しても、結果として裁定に至る事案が生じないような精算方法となった場合には、当該検討に要した事業者・行政のコストが無駄になることが危惧される。

<データ接続料>

- 第二種指定電気通信設備を設置する事業者が算定するデータ接続料は、第二種指定電気通信設備接続料規則に基づき算定され、総務省への届出が行われ確認・検証されているため、裁定に至る可能性は低いと考えられる。

「つなぐチカラ」を進化させ、
誰もが思いを実現できる社会をつくる。

KDDI VISION 2030

